



決済システムの高度化と
基幹インフラとしての
日銀ネット

日本銀行
2016年3月18日

目次

1. 新日銀ネットの構築とその有効活用
…P.1～3
2. 銀行送金の24/7化に関する動向
…P.4
3. わが国決済システムの中長期的な展望
…P.5

1-1. 新日銀ネットの全面稼働開始(15/10月)

- 新日銀ネットは、①最新の情報処理技術を採用し、②変化に対して柔軟性が高く、③アクセス利便性の高いシステムとすることを基本コンセプトに構築。
- 利用金融機関等の(a)担保利用効率の向上、(b)資金効率の向上、(c)国債決済の円滑化、といった機能改善が実現。
- 夜間の稼働時間の拡大(19時→21時。16年2月15日～)により、海外市場との決済時間帯の重なりが増え、クロスボーダーの資金・国債決済が迅速化。

1-2. 日銀ネットのさらなる有効活用

- 日本銀行では、新日銀ネットの下で、夜間の稼働時間拡大(19時→21時)を16年2月15日に実施。引き続き、利用金融機関や業界団体との間で、新日銀ネットのさらなる有効活用の方法について議論を深めている。

<稼働時間拡大の意義>

海外市場との決済時間帯の重なりが増えることで、クロスボーダーの資金・証券決済が迅速化



決済リスク削減、資金・担保効率向上を通じ、わが国決済全体の安全性・効率性向上や金融市場の活性化、金融機関の企業向け決済サービス等の高度化にも資する。

<夜間における有効活用の具体例>

- ・海外との円建て顧客送金の迅速化
- ・グローバルベースでの日本国債の有効活用

1-3. 「日銀ネットの有効活用に向けた協議会」

- 日銀ネットの有効活用方法等について、日銀ネットの利用金融機関等と本行が議論を行う場として、13年8月に協議会を設置。

「日銀ネットの有効活用に向けた協議会」

本行HP — 業務上の事務連絡 — 日銀ネット関連 — 日銀ネットの有効活用に向けた協議会

- 協議会第14回会合（本日開催）において、検討体制の変更（3つのWGを設置）と、新規メンバーの追加公募（応募期限：4/8日）が合意された。

協議会

「円とJGBのグローバルな有効活用WG」

「円建て顧客送金・銀行間送金WG」

「クロスボーダー決済インフラWG」

今後は、3つのWG・協議会を通じて、フェーズ I（21時までの拡大）の取引活性化、フェーズ II（さらなる稼働時間拡大）を含めた日銀ネットの有効活用方法について、具体的な議論を実施予定

2. 銀行送金の24/7化に関する主要国の動向

- 海外主要国において、週末や深夜、早朝を含めた銀行送金の即時着金を可能とする方向での取組み(24/7サービス化)が、積極的に進展。

	<24/7実現済み>			<24/7検討中>	
	英国	スウェーデン	シンガポール	豪州	欧州
実現時期	2008年	2012年	2014年	2017年	2017年
システム名	Faster Payments Service (FPS)	Payments in Real Time (PRT)	Fast and Secure Transfers (FAST)	New Payments Platform (NPP)	Instant SEPA Credit Transfer Scheme (SCT ^{inst})
直接参加者	主要10行	主要9行	主要19行	銀行等	銀行等 ノンバンクの決済サービス提供者
カバレッジ ^(注1)	約95%	NA	約90%		
24/7サービス提供状況	100% <義務有り ^(注2) >	100%	100%		
拡張サービス	モバイルペイメント 口座番号不要の送金 (店頭銀行送金)	モバイルペイメント	モバイルペイメント	モバイルペイメント 口座番号不要の送金 取引情報付記	モバイルペイメント 口座番号不要の送金 マネーロッキング検知機能
銀行間決済の方法	時点ネット決済 (平日3回) (中銀マネー決済)	RTGS (民間マネー決済)	時点ネット決済 (平日2回) (中銀マネー決済)	RTGS (中銀マネー決済)	NA

(注1) 英国は国内全銀行口座に占める主要10行の比率、シンガポールは全小切手決済のうち主要19行が占める比率を示す。

(注2) 英国FPSの直接参加者は、24/7サービスの提供を義務付けられている。

(出所) 各国資金決済システム運営者開示資料等

3. わが国決済システムの中長期的な展望

効率性の向上

迅速性、適時性

システム稼働時間の拡大、決済リスクの削減

全銀システム高度化、証券決済期間の短縮化、日銀ネットの稼働時間のあり方についての検討

機能性

付加価値の高いサービスの提供、STP化の実現

企業財務の高度化(金融EDIの実現)、担保管理サービスの高度化

相互運用性、接続性

アクセス利便性の向上、STP化の実現

クロスボーダー・リンク、日銀ネットへの接続性のあり方についての検討

安全性の確保・向上

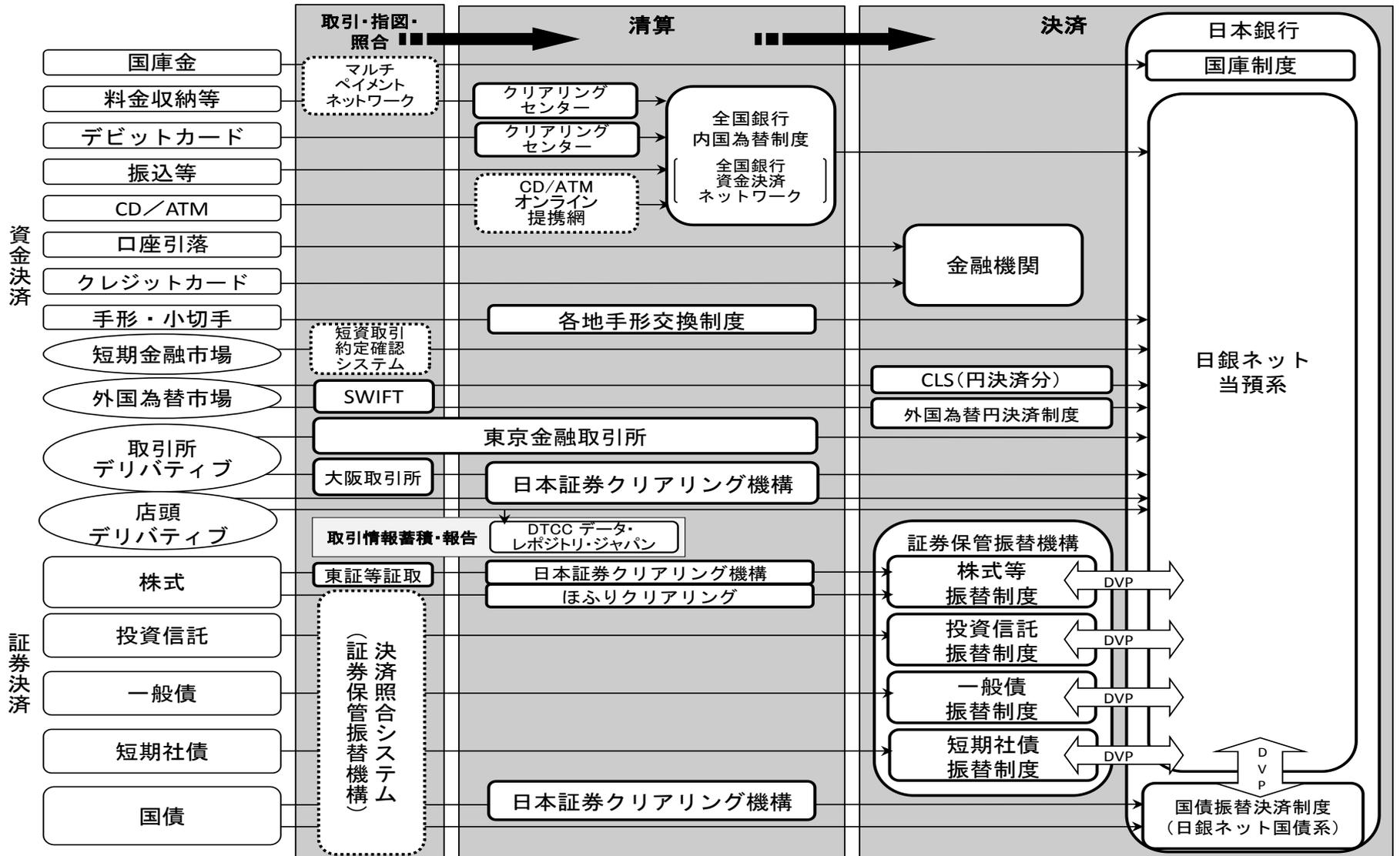
リスク管理

リスクの適切な把握・評価、適切な対応策の実施、決済システム・金融インフラへの信頼性の確保

FMI原則の定着化、日銀ネットの安定運行、オーバーサイト活動

参考資料

【参考】わが国の決済システム 1/2



(注) 点線で囲まれているシステムは取引の一部で利用されているもの。

【参考】 わが国の決済システム 2/2

- 日銀ネットとは、日本銀行と金融機関等の中の資金や国債の決済を担う、わが国決済システムの基幹インフラ。

利用金融機関等の数(2015年12月末時点)

当座預金決済 : 472先 国債決済 : 284先

資金決済システム			
日銀ネット (当預系)	全銀 システム	外国為替円 決済制度	東京手形 交換所
69.3千件 135.6兆円	6,346千件 12.2兆円	27.7千件 15.7兆円	84千枚 0.9兆円

証券決済システム		
日銀ネット (国債系)	証券保管振替機構	
18.3千件 101.6兆円	短期社債: 947件	5.0兆円
	一般債: 553件	4,151億円
	投資信託: 5,341件	5,512億円
	株式等: 1件	37億円

清算機関		
日本証券クリアリング機構	ほふり クリアリング	東京金融 取引所
国債店頭取引: 28.4兆円 取引所取引等: 2,171億円	7,190億円	55百万円

(注)

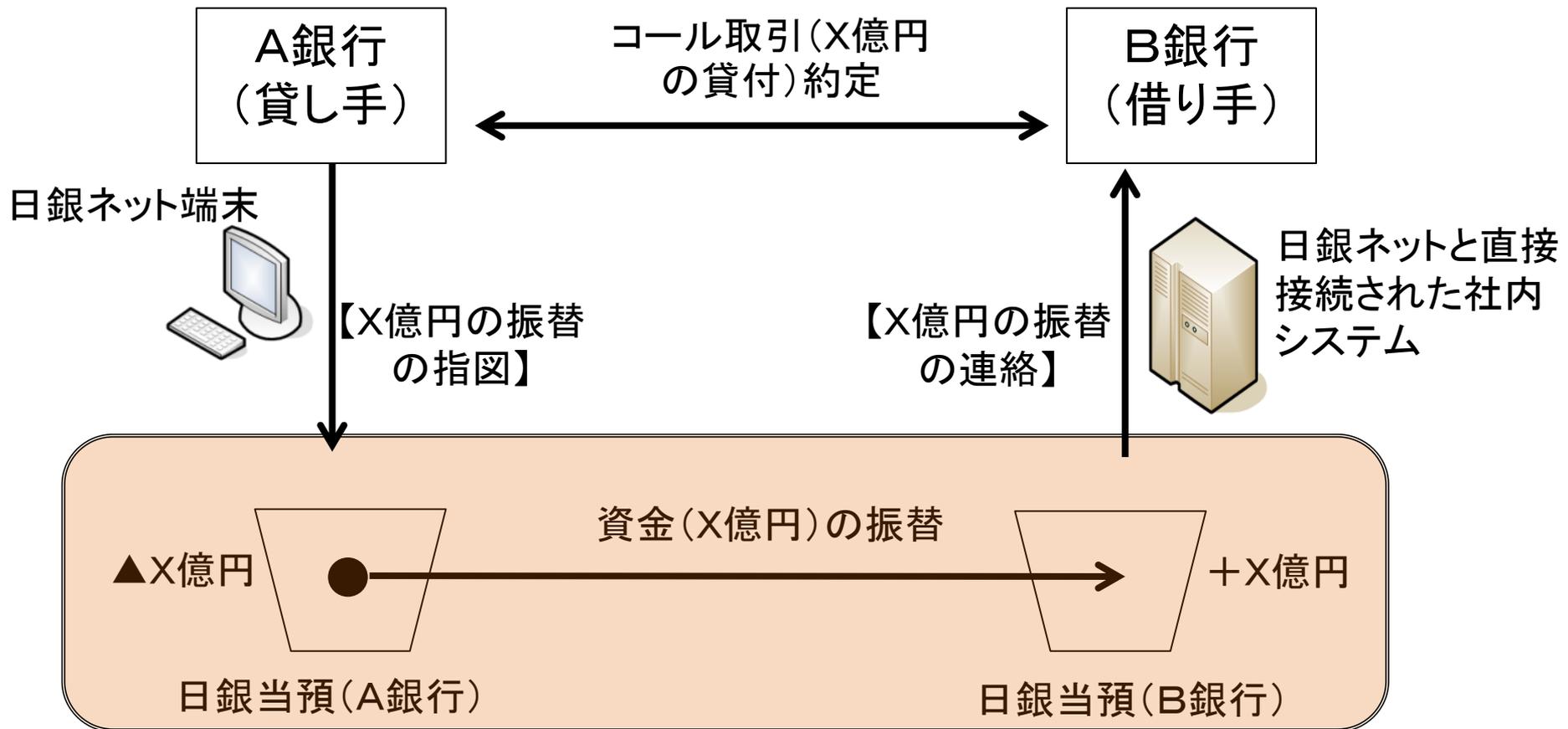
1. 2015年中の1営業日平均。
2. 清算機関は、ネットィング後の資金決済金額。

決済の「安全性」・「効率性」向上に向けた動き

		わが国の主な動き	
70年代	金融の自由化・国際化、国債発行の増加	全銀システム稼動(1973)	<div style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;"> 効率性向上 (処理量の拡大) </div>
80年代		国債振込制度整備(1980) 日銀ネット当預系稼動(1988)	
90年代	アジア・米欧の金融危機と国際規制の強化	日銀ネット国債系稼動(1990) 証券保管振替機構開業(1991)	<div style="border: 1px solid orange; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;"> 安全性向上 (リスクの削減) </div>
00年代		国債DVP決済開始(1994) 国債ローリング決済へ(1996) 日銀ネットRTGS化(2001) CLSの外為同時決済開始(2002) 証券清算機関の開業・DVP化(2003~05)	
10年代	一段のグローバル化・IT化	日銀ネットに流動性節約機能導入(2008) ASEAN+3が域内決済システムの接続を提言(2014) 全銀システムのあり方に関する検討(2014) 新日銀ネットの全面稼動(2015)	<div style="border: 1px solid green; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;"> 効率性向上 (処理量の拡大) </div>
20年代		日銀ネットの稼動時間を21時までに延長(2016)	

【参考】 日銀ネットの役割 1 / 3

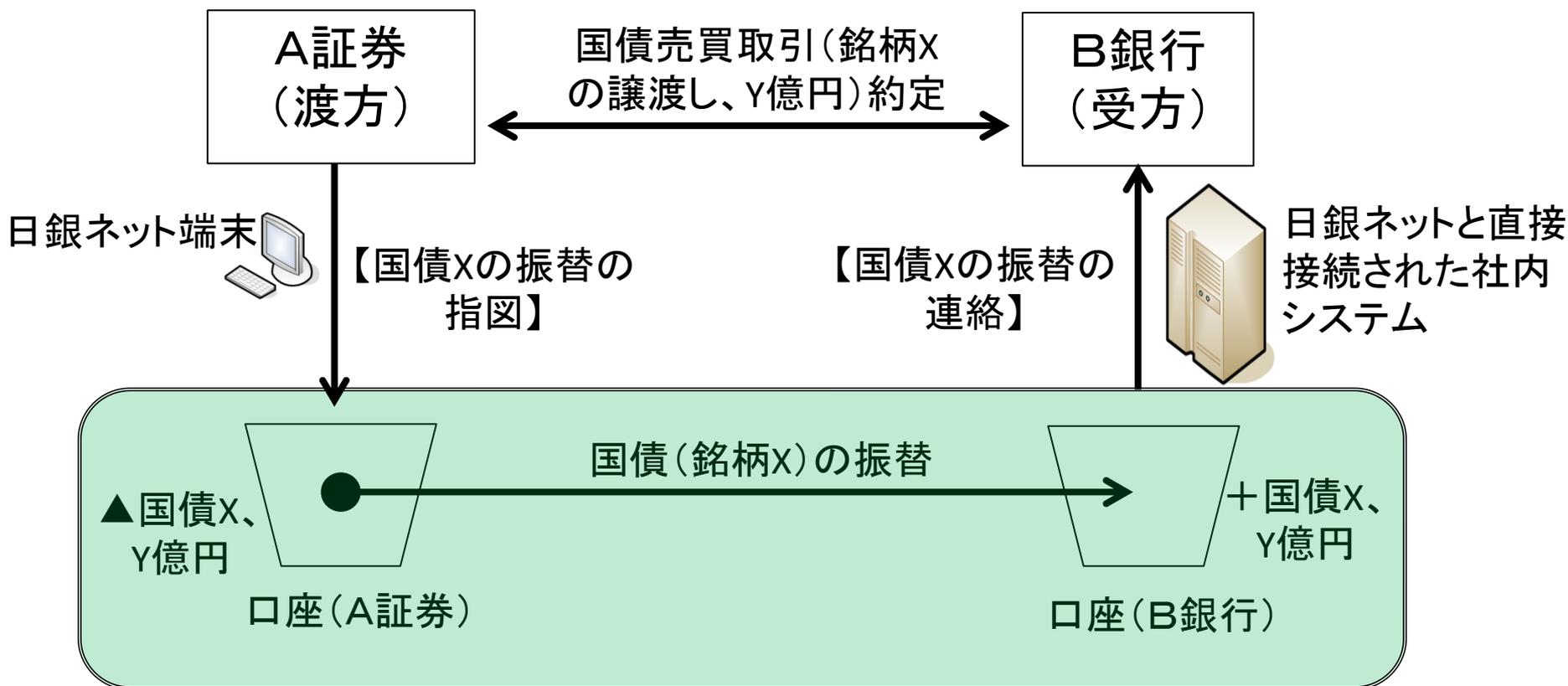
- 短期金融市場における無担コール取引にかかる決済の例



<日銀ネット当預系>

【参考】 日銀ネットの役割 2/3

- 証券市場における国債売買取引にかかる国債決済の例



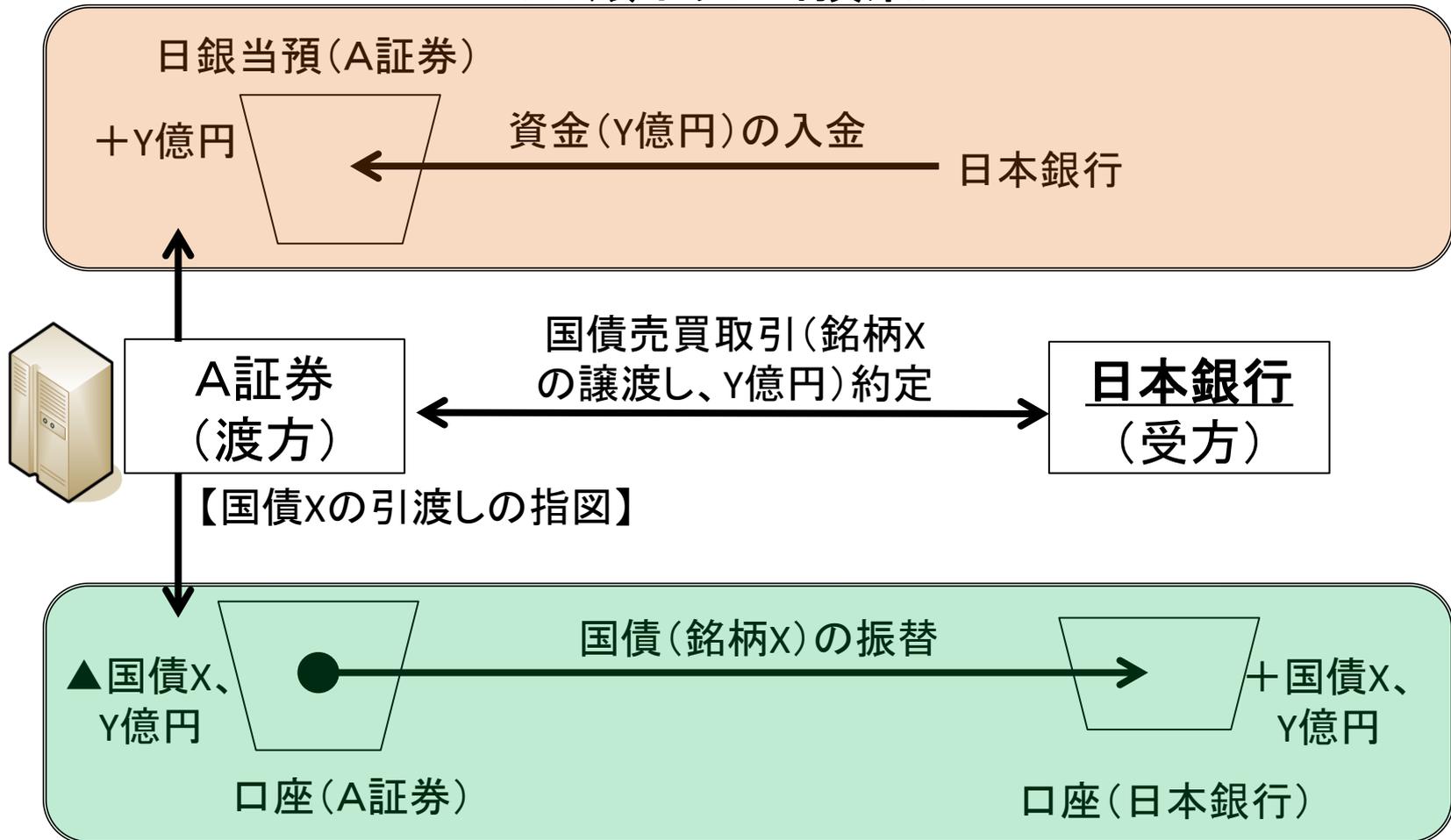
＜日銀ネット国債系＞

※ 同時に、日銀ネット当預系を連動させ、受渡対象国債の譲受けにかかる資金の支払い (B銀行→A証券)を行うことで、国債のDVP (Delivery versus Payment) 取引が実現。

【参考】 日銀ネットの役割 3/3

- 国債買入れオペにかかる決済の例

<日銀ネット当預系>



<日銀ネット国債系>

【参考】新日銀ネットの基本コンセプト

① 最新の情報処理技術を採用

- プログラミング言語やシステム連携基盤などで、汎用性が高く、今後の発展が期待される、最新の情報処理技術を採用

② 変化に対して柔軟性が高いシステムの構築

- 機能の統廃合・プログラムの共通化などを通じ、金融サービス内容やニーズの変化に柔軟に対応し得るシステムを構築

③ 金融取引のグローバル化・決済インフラのネットワーク化に対応するための、アクセス利便性の向上

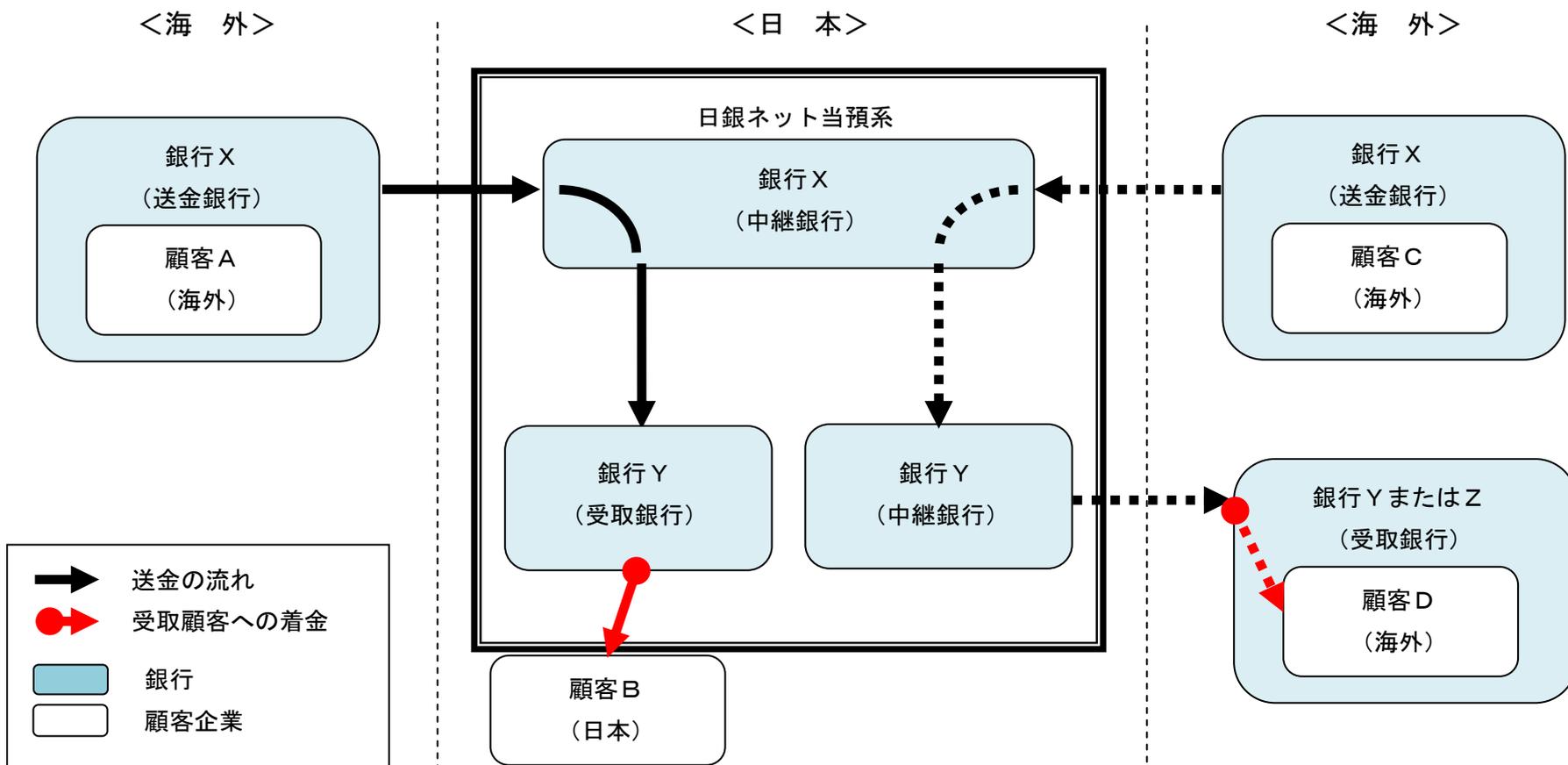
- XML電文や国際標準コードなどの採用を通じて、内外の決済システムや金融機関との接続性を向上
- 稼働時間の大幅な拡大が可能となるシステム基盤を整備

【参考】日銀ネットの夜間利用例 1 / 2

海外との円建て顧客送金の形態

①海外顧客から国内顧客への送金

②海外顧客から海外顧客への送金

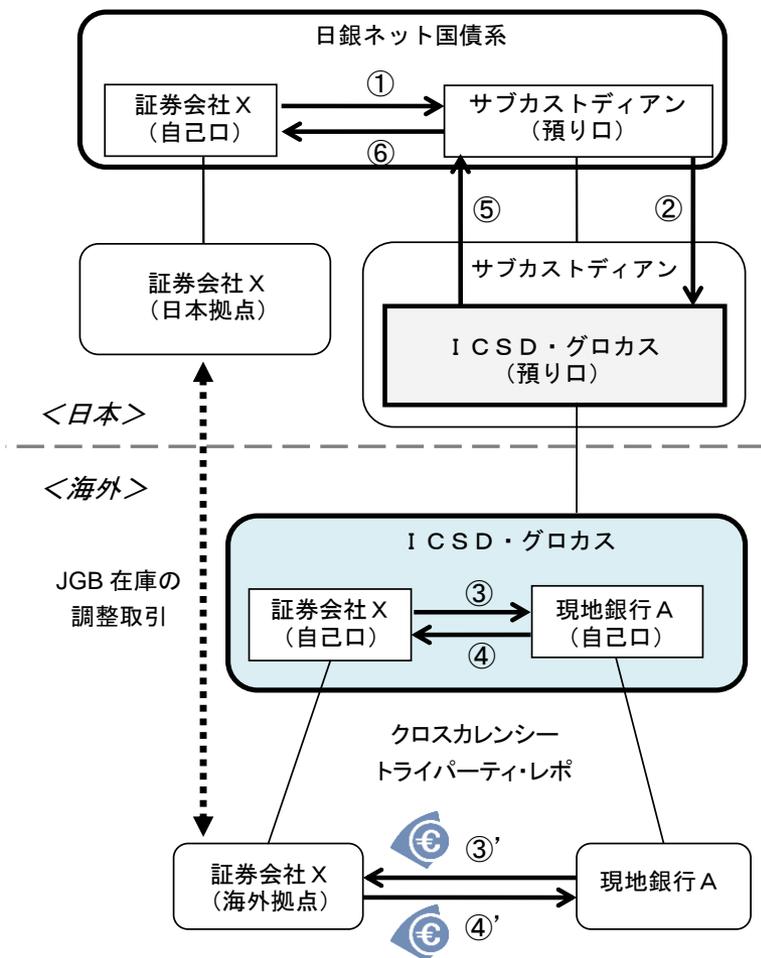


※「新日銀ネットの有効活用に向けた協議会」報告書(2014年3月)より

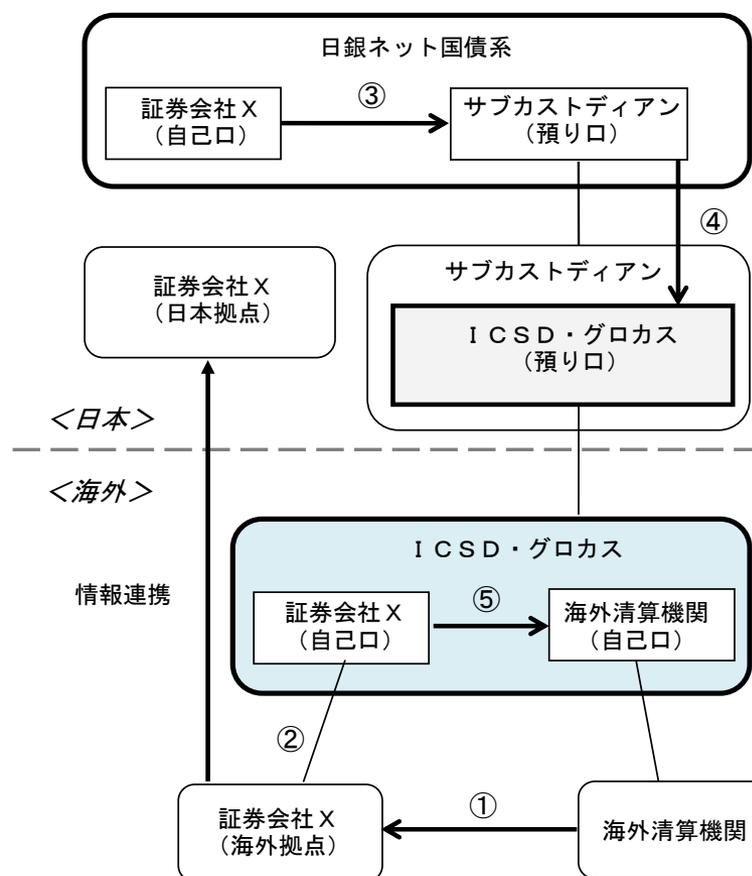
【参考】日銀ネットの夜間利用例 2/2

グローバルベースでの日本国債の有効活用の形態

(1) JGBの担保利用による外貨・外貨建て証券の調達手段の拡大

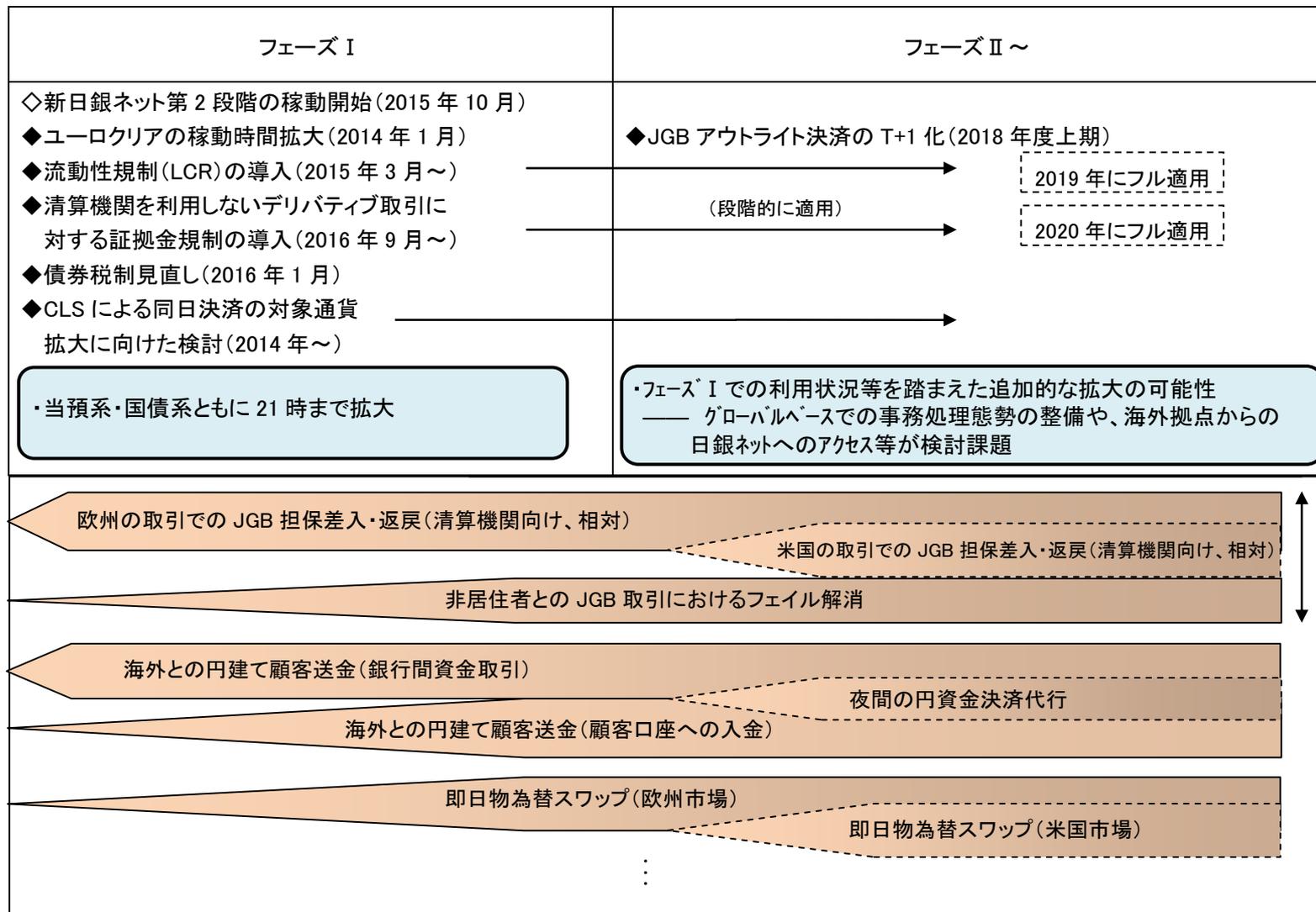


(2) 海外清算機関への機動的なJGB担保差入



※「新日銀ネットの有効活用に向けた協議会」報告書(2014年3月)より

【参考】日銀ネットの稼働時間拡大のロードマップ



※「新日銀ネットの有効活用に向けた協議会」報告書(2014年3月)より

